

8. 人的な事業推進態勢の充実

協会は組織経営から事業推進まで幅広い場面に多くの市民が参画している。特に事業推進に直接関与するスタッフを「アソシエーター」(協会=Associationから作った造語)と呼んでおり、2010年度も、ボランティア(のべ215人、実数164人)と有給専従スタッフ(事務局員22人)が協働して事業推進に当たる体制「参加システム」で事業を進めた。

具体的には、①個々の事業を企画推進する「チーム」「委員会」「事務局」を核に、②事業部門ごとに「運営委員会」を設け、さらに③経営全般を協議する「常任運営委員会」「財務・基金運営委員会」を開催。④「事務局員」が日常的に事業の“つなぎ役”となる他、⑤年2回、全体合宿(11月の「一泊創出会議」、3月の「事業計画会議」)を開催。アソシエーター全員の協議で事業や組織のあり方を決めるシステムをとり、自治的で開かれた形で運営を進めている。

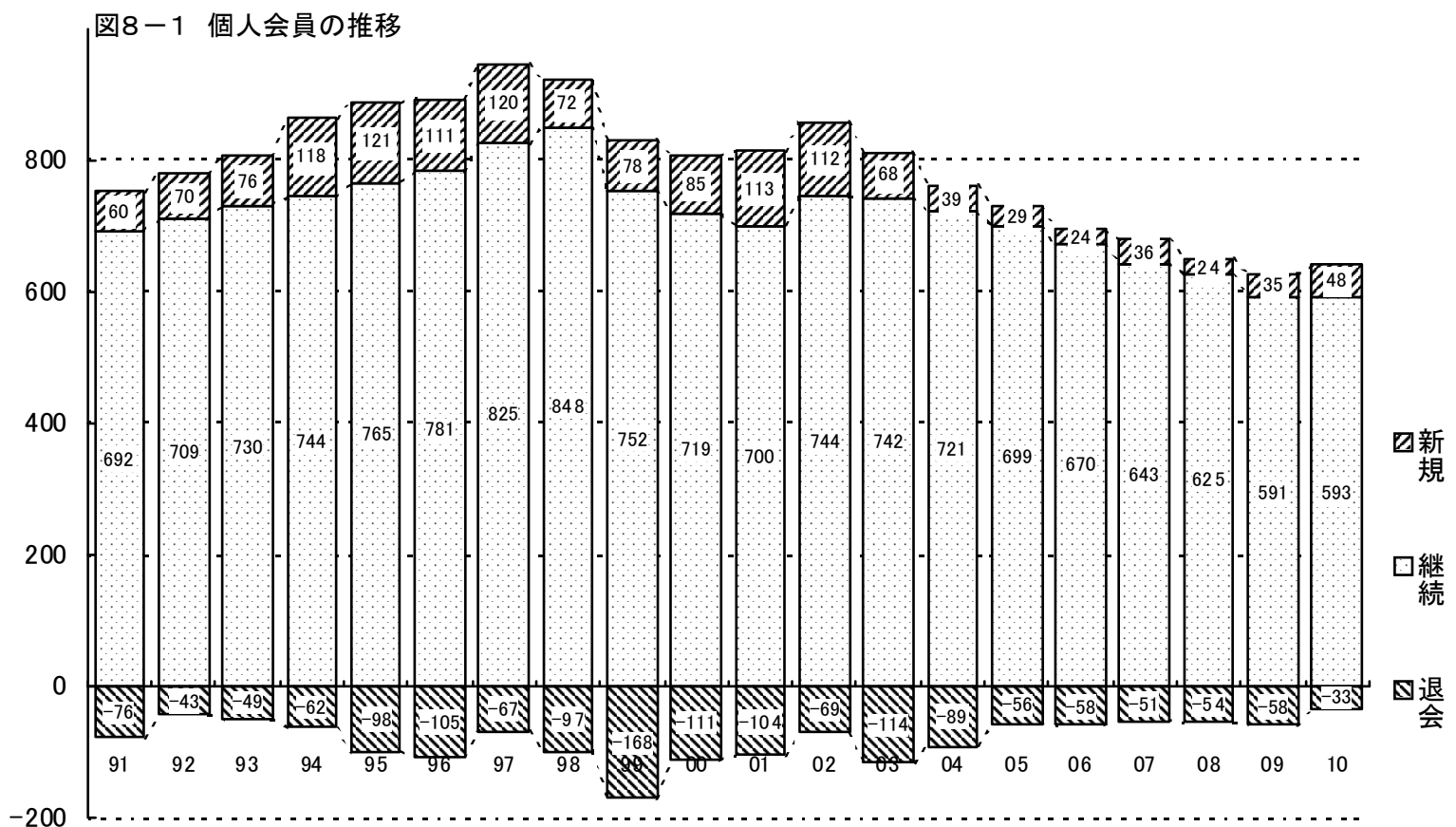
1. 会員の拡大

(1) 会員の現況

協会は、その目的に共感する市民が“個人会員”として事業を支える一方、趣旨に賛同いただいた企業などに“賛助会員”として資金的援助を受けている。2010年度は新しいアソシエーターや事業関係者などたくさんの方にご入会いただき、8年ぶりに純増に転じた。一方、統合・併合等が続く企業では、ご支援も困難な状態が続いている。非営利団体からは2団体の新規入会があった。なお特別会員は協会創設以来、多額の助成をいただいている(財)皓養社・前理事長 中納久昭氏である。〔下表で()内は昨年度実績〕

表8-1 2010年度の会員の異動状況 (カッコ内は前年同期実績)

	2010年4月	新規加入	退 休 会	2011年3月
特 別 会 員	1 人	0 人	0 人	1 人
個 人 会 員	626 (649) 人	48 (35) 人	33 (58) 人	641 (626) 人
(内、生涯会員)	19 人	3 人	1 人	21 人
団体賛助会員(企業)	59 (63) 社	0 (1) 社	2 (5) 社	57 (59) 社
団体賛助会員(非営利)	9 (10) 社	2 (0) 社	0 (1) 社	11 (9) 社
合 計	714 (723)	53 (36)	36 (64)	731 (694)



(2) 会員拡大に向けた努力

①. 会員限定通信誌『The ボラ協』の内容

5・6月号	「自治の学校」開催！／事業計画会議～2010年度に向けて、協会の熱き思い～
7・8月号	2010年度定期総会・記念講演会レポート／定期総会報告／事務局長退任・就任のご挨拶／2010年度アソシエーターのご紹介
9・10月号	裁判員ACTの取り組み／「早瀬昇さん、これからもよろしくね！の会」レポート
11・12月号	ボラ協に生息する妖怪たち／協会の支援的財源の拡大も～「ちょこっと寄付」へのご協力、感謝いたします～／連続学習会『一步踏み込む！多文化共生～次のアクションへ向けて』
1・2月号	今年こそは！2011！！／2010年度一泊創出会議／ボランティアスタイルDAY／2010年第5回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪
3・4月号	「KVネット」リニューアル大作戦！／「厳かに和やかに時々ユーモア」～高森敬久先生を偲ぶ会報告～／裁判への市民参加を考える／キラリ会員インタビュー「北口幸男さん」

②. 会員コミュニケーションプロジェクトの動き

協会の支援者を増やすため、会員の維持・拡大について検討する「会員コミュニケーションチーム」を設置。10年11月～11年1月に会員拡大キャンペーンを実施し、講座・書籍等の1,000円割引券を特典として、18人の新規入会を得た。

③. 寄付および会費自動納入システムの運営

現在、近畿労働金庫、郵便貯金で、会費等の自動引き落としができ、金融機関に出向かずとも会費を納入できる。2010年度末の利用会員は、近畿労働金庫：8人、郵便貯金：31人である。

なお、特に個人会員に焦点を当てて実施している会員向け事業は、以下のとおりである。

- A. 市民活動総合情報誌『ウォロ (V o l o)』の年間購読料2,000円引
- B. 協会発行図書や協会主催講座の割引、会員研修(総会時)の無料招待
- C. コピー、簡易印刷機、紙折機など協会備品の無料使用(消耗品実費分は有料)
- D. 会員メーリングリストの加入 など

2. 組織活動

(1) 理事会(第52～54回)の開催

- ①第52回 開催日：2010年5月24日(月)、出席理事：15人(うち書面出席8人)、欠席0人
議案：①2009年度事業報告案および決算報告案について ②2010年度補正予算案について ③経理規程の改定について ④事務局長の選任について
- ②第53回 開催日：2010年11月8日(月)、出席理事：15人(うち書面出席8人)、欠席0人
議案：①2010年度上半期事業実績および上半期収支実績について ②2010年度下半期事業計画案および第2次補正予算案について ③理事の一部改選案について ④就業規則の改正案について
- ③第54回 開催日：2011年3月24日(木)、出席理事：14人(うち書面出席8人)、欠席1人
議案：①2011年度事業計画案および予算案について

(2) 常任理事会の開催

協会の経営や労務面の課題を日常的に審議し、毎月の常任運営委員会の議案整理と理事会に提案する事項を審議するため、理事長、常務理事、常任運営委員長、事務局長で「常任理事会」を設置。毎月、開催した。

(3) 評議員会(第51～53回)の開催

- ①第51回 開催日：2010年5月24日(月)、出席者：19人、欠席12人
 - ②第52回 開催日：2010年11月8日(月)、出席者：20人、欠席11人
 - ③第53回 開催日：2011年3月24日(木)、出席者：21人、欠席10人
- ※ 各回とも同日に開催した理事会に付した議案を、あらかじめ審議するとともに理事を選出した。

(4) 監事会の開催

開催日：2010年4月30日(金)、出席監事：3人

内容：「2009年度事業報告・決算報告」に関し、事業・経理・組織運営面の監査を実施した。

(5) 会員総会(2010年度定期総会)の開催

開催日：2010年5月22日(土)

会場：大阪NPOプラザ 3階会議室

出席：323人(うち委任状提出者248人)

内容：

- 1部＝記念講演会「誰もが安心した社会で暮らすには～市民活動としての反貧困運動の今後～」
講師：湯浅 誠氏(反貧困ネットワーク事務局長)
参加者＝114人(うち会員以外の参加者28人)
- 2部＝①2009年度事業報告案と決算報告案について、②2010年度事業計画案と予算計画案について、④アソシエーターへの委嘱状交付
- 3部＝早瀬事務局長お疲れさま&新体制ご紹介の会



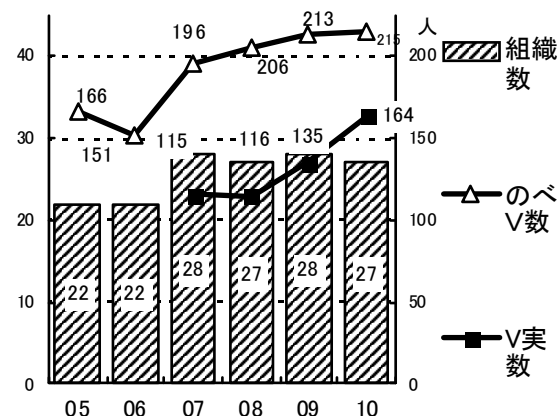
協会の総会は事業報告、事業計画案、決算、予算案の説明を受けた後、小グループに分かれて活発に意見交換します。事業に対する提案や協会への期待など、多くの意見が交わされます。

3. 市民参加による事業推進

協会事業への市民参加の状況(「参加の場」(チームなどの組織数)と、参加するボランティアののべ人数)を図8-2に示す。

チーム、委員会の数は事業の終了と新設によって同水準になったが、新規事業をスタートさせた結果、アソシエーターのべ295人(前年度307人)[うち、ボランティアのべ215人(同213人)と微増]、実数は164人(同135人)と増加した。

図8-2 事業への市民参加



(1) NPOのボランティア推進チーム

(チーフ・今村澄子、ボランティア＝V3人、職員2人)

- ① 協会のボランティア参加環境の整備、②他のNPOのボランティア参加推進を目的に活動。

2010年度は「アソシエーター新人研修」の企画と実施、NPOのボランティアマネジメント講座の企画と運営を行った。また、他団体のボランティア受入れ状況を把握するため、ヒアリングを行った。

(2) 一泊創出会議、事業計画会議(アソシエーター総会)の開催

事業活動と組織運営をアソシエーター全員が参加できる場で検討するため2回の合宿を開催した。

毎年秋に開催している「一泊創出会議」では、将来ビジョンを受けて、既存事業の総点検を実施。客観的な指標を設定し、事業効果を数値で表現して、今後の事業の方向性を議論した。また、将来ビジョンを受けて、事業の具体化に向けて、その方策を検討した。

また3月に開いた「事業計画会議」では、チーム、委員会、事務局など全事業主体が、それぞれでまとめた2010年度の取り組みに対する評価と、2011年度の事業計画・予算案を提案。小グループごとに意見交換と質問・評価シートの記入を行うとともに、全体での討議を通じて、事業の質の向上を図っている。その後にかかれる理事会・評議員会に提案される事業計画書・予算書は、この合宿を経てまとめられる。このように協会の事業計画立案はボトムアップ型のスタイルとなっている。

- ・一泊創出会議：2010年1月27日(土)～28日(日)、30人参加。【第1部】ボランティア・NPO推進センターの事業展開について激論する～「コア事業」や「収益性」など意識しながら3つのテーマを考える。
【第2部】新拠点について、として、事業の評価と将来ビジョンの具体化について話し合った。
- ・事業計画会議：2011年3月12日(土)～13日(日)まで、44人が参加。昨年度に引き続き、センター別に事業ごとに5分のプレゼンテーションを実施し、バズセッションによる意見交換やフィードバックシートによる参加方法を工夫し、活発な意見交換を行った。

(3) 常任運営委員会 (委員長 延岡 敏也、委員V13人、職員4人)

協会事業全般に関し、ボランティアスタッフによる日常的な経営協議の場として組織している。なお委員でない事務局員も発言可能なオブザーバーとして参加している。(定例日 原則第4火曜、午後7～9時、大阪NPOプラザ)

＜委員＞ 延岡敏也(委員長)、岡本友二、今村澄子(以上、副委員長)、井上小太郎、久保友美、小林義彦、筒井のり子、名賀 亨、西江孝枝、吐山継彦、福島義弘、増田宏幸、村岡正司、早瀬 昇、水谷 綾、永井美佳、岡村こず恵

＜主な協議内容＞ センターの組織再編、「定期総会」の持ち方、役員就任ルールについて、応援センターからの共同事業の関係整理に関する提案、北区同心事務所の開館体制、民V30回の開催について、拠点問題の見通しと財政問題の検討、拠点ワーキングと今後の進め方、「一泊創出会議」の持ち方について、内閣府「新しい公共支援事業」について、大阪市市民活動拠点構想について、来年度の総会の持ち方、NPOに関する税制改正の動きについて、「事業計画会議」のプログラム、来年度の事務局体制とボランティアNPO部門の取り組み重点について、東日本大震災の被災地支援のあり方と来年度の事業計画の見直しについて、など。

(4) 財務・基金運営委員会 (委員 V7人+職員3人)

常任運営委員会の諮問機関として、財政運営や基金の管理運営を検討するために設置。年5回開催した。

＜ボランティア委員＞ 井上小太郎、岡本榮一、早瀬 昇(6月より)、平手清、松井淳太郎、三砂 孝、山元弘久

＜事務局委員＞ 早瀬 昇(5月迄)、水谷 綾、永井 美佳、松下仁美

＜主な協議内容＞ 決算(四半期毎)・予算(+補正予算)・月次収支の確認、基金や積立金の運用にかかる定期預金や公社債の管理、団体賛助会員への対応、財源開発に向けた意見交換など

(5) 【新】 ボランティア・NPO推進センター運営委員会 (委員長・今村澄子、他V9人+職員10人)

協会事業全般に関し、ボランティアスタッフによる日常的な経営協議の場として組織している。(定例日 原則第3火曜、午後7時～9時、福島区野田事務所)

＜委員＞今村澄子(委員長)、阿部圭宏、石原真弓、川井田祥子、川畑恵子、杉浦 健、谷水美香、西 誠、村岡正司、他事業事務局員

＜主な協議内容＞委員長の選任、今後の検討の流れ、重点性ブレスト(市民学習編、NPO編、VCO編)、ブレストのポイントと今後の検討の進め方、「アドボカシー塾」「お金の参加」事業実現に向けての検討、など

・「NPO支援センター向け事業開発部会(KNN世話人会)」の取り組み (委員 V7人+職員2人)

運営委員会のテーマ別部会の一つとして設置。「関西NPO支援センターネットワーク(KNN)」の企画に取組み、5回の協議を重ねた。

＜ボランティア委員＞ 石原真弓、川畑恵子、坂田慶子、須貝昭子、中村仁美、堀江利代、堀野亘求

(6) NPO推進センター運営委員会 (委員長・阿部圭宏、V3+職員6人)

NPO推進センター事業について検討した。上半期は2回開催し、下半期は新たに発足した「ボランティア・NPO推進センター運営委員会」に議論を引き継いで、発展的に解消した。

＜ボランティア委員＞ 阿部圭宏、石原真弓、岡本友二

＜主な協議内容＞ 大阪NPOプラザ事業の評価、支援センター機能の整理、共同事務所型市民活動拠点のあり方、など

(7) 【再編】 ボランティアコーディネーションカアアップ推進委員会 (委員 V5人+職員5人)

ボランティアを支援する協会内外の専門スタッフの育成と支援、専門性の向上を目的に、2010年度は6回開催、おおむね2時間の協議を重ねた。

＜ボランティア委員＞ 石井祐理子、岩本裕子、海士美雪、垂井加寿恵、南 多恵子

＜主な協議内容＞ 組織再編に伴い、委員会の目的や活動内容の検討、初任者向けボランティアコーディネーター講座を企画、実施した。

(8) 企業市民活動推進センター運営委員会 (委員長・井上小太郎、V7+職員3人+インターン1人)

企業市民活動推進センターの戦略と事業全般の強化について検討する場として開催。2010年度はCCCの次なるアクションはどうあるか、を検討した。

- <ボランティア委員> 井上小太郎(委員長)、尾崎 力、楠 正吉、小林義彦、原田京子、廣田浩一、松井淳太郎
 <主な協議内容> 関西CSRメッセの企画について、企業の基金運営助成事務局に関する相談について、CSR応援するNPOネットの取り組みと経過報告と調査内容について、総括と来年度の重点について

(9) 「ボランティアリズム研究所運営委員会」(委員長・岡本仁宏、他V9人+職員4人)

「ボランティアリズム研究所」のビジョンや運営について検討。2010年度は5回開催した。

- <ボランティア委員>井上小太郎、岡本仁宏、柏木宏、久保友美、名賀亨、牧口明、守本友美、岡本榮一、早瀬昇
 <主な協議内容> 「運営委員会」と「研究誌編集委員会」の役割分担、研究誌の位置づけ、研究誌の特集テーマ、執筆者、公募研究、研究チーム企画について

(10) チーム・専門委員会などの活動

ボランティアスタッフが直接推進している事業は、推進チーム、専門委員会などを組織して企画・運営している。各チーム、専門委員会の名称などは以下のとおりである。

A. 推進チーム (14チーム、ボランティアのべ140人)

- ①. 「自治の学校」運営チーム (チーフ・今村澄子、8+1人。月1回)
- ②. 裁判員ACTチーム (チーフ・川畑恵子、13+2人。月1回)
- ③. NPOのボランティア推進チーム (チーフ・今村澄子、3+2人。月1回)
- ④. ボランティアスタイルチーム (チーフを決めず、22+9人。月2回)
- ⑤. 市民活動サロン「遊学亭」運営チーム (チーフを決めず、6+1人。随時)
- ⑥. 「パレットカフェ」推進チーム (チーフを決めず、18+2人。随時)
- ⑦. 「Volo (ウォロ)」発送チーム (チーフを決めず、10+1人。月1回)
- ⑧. ITボランティアチーム「むくどり」(チーフ・廣田浩一、14+1人。月1回)
- ⑨. 英語情報発信強化チーム「Eボラ (イーボラ)」(チーフ・岡田 明、5+1人。月1回)
- ⑩. 「市民活動年表」研究チーム (チーフ・岡本榮一、13+1人。随時)
- ⑪. ボランティア・市民活動ライブラリー運営チーム (チーフ・久保友美、8+1人。随時)
- ⑫. 映像製作発信チーム「トライポッド」(チーフ・神吉良輔、9+1人。随時)
- ⑬. 北区事務所活用検討チーム「同心同志会」(チーフを決めず、6+3人。随時)
- ⑭. 多文化共生推進チーム「カクテル」(チーフ・丸山敏夫、5+1人。月1回)

B. ワーキングチーム (1チーム、ボランティアのべ3人)

- ①. 拠点検討ワーキングチーム (チーフを決めず、3+4人。随時)

C. 専門委員会 (9委員会、ボランティアのべ69人)

- ①. 「Volo (ウォロ)」編集委員会 (委員長・吐山継彦、24+2人。月1回)
- ②. 出版委員会 (委員長・牧口 明、9+2人。年3回)
- ③. 「ボランティアリズム研究」編集委員会 (委員長・岡本仁宏、5+2人。年3回)
- ④. 「中間支援本」編集委員会 (メンバー調整中)
- ⑤. 多文化共生事業委員会 (委員長を決めず、3+6人。月1回)
- ⑥. 関西NPO会計税務研究会 (委員長を決めず、6+1人。随時)
- ⑦. フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム幹事会 (委員長を決めず、8+3人。隔月1回)
- ⑧. 「THEボラ協」編集委員会 (委員長を決めず、10+1人。隔月1回)
- ⑨. 会員コミュニケーションチーム (チーフを決めず、4+5人。随時)

4. 事務局体制の充実

(1) 職員研修の実施

- 開催日：2010年6月26日(土) 10時～18時 会場：大阪NPOプラザ 参加者：職員14人
- 内容：第1部「業務目標評価シート」「ガントチャート」を用いた担当業務の現状評価と今年度目標を発表
 第2部 ①話題提供1「震災時、協会は何をしたのか」 早瀬昇
 ②話題提供2「震災ボランティア今昔物語」 長谷部治(神戸市長田区社協長田ボランティアセンター)
 ③ディスカッション「震災時・緊急時に、大阪ボランティア協会としてどう動くか、を考える」

(2) 事務局マネージャー会議の設置

事務局運営の円滑化をはかるため、常務理事、事務局長、事務局次長、事務局主幹の4人で、毎月1回開催。6月以降は、日常的な業務の詳細確認について、事務局長、事務局次長、事務局主幹の3人で、随時協議する場面も加えて、事務局体制の検討や職員研修の企画、労務や法人事務、事務局会議での検討事項の整理にあたった。

(3) 2010年度の事務局体制

2010年度に事務局業務に従事した有給スタッフとボランティアは、以下のとおりである。常勤職員12人、非常勤職員10人であり、雇用形態別では正職員11人、嘱託職員3人、アルバイト8人であった(年度途中の退職者・入職者を含む。以下、敬称略)。

※ ボランティアをV、NPO推進センターをNC、大阪NPOプラザをONP、企業市民活動推進センターをCCCと略記

早瀬 昇(5月末迄常務理事・事務局長、6月より常務理事)

【正職員】 水谷 綾(5月末迄事務局次長、6月より事務局長；全事業統括、総務、人事、渉外、常任運営委、東日本大震災支援等)、永井美佳(5月末まで事務局主幹、6月より事務局次長；V・NC事業、ボランティアスタイル事業、ONP所長、財務、総務、労務、東日本大震災支援等)、岡村こず恵(事務局主幹；出版事業統括・編集、研究所、NC事業、自治の学校等)、江淵桂子(事務局主任；NC事業、関西NPO支援センターネットワーク、ONP、阪急阪神助成、会員、ザボラ、総務等)、影浦弘司(事務局主任；CCC事業、CSR推進、講師派遣調整、トライボッド、大ガス助成、積水助成等)、白井恭子(Vコーディネーション、KVネット、大学Vセンター連絡協議会、遊学亭、Nボラ、東日本大震災支援等)、梅田純平(障害者Vコーディネーション、語り手講座・手話講座、会場利用登録、スペシャルオリンピックス日本大会運営協力、東日本大震災支援等)、奈良雅美(Vコーディネーション、多文化共生事業、パートナー登録、Eボラ、真如苑調査等等)、金治宏(ウォロ、裁判員ACT、ライブラリー等)、山本佳史(大阪NPO情報ネット、ONP管理業務、パレットカフェ、むくどり等)

【嘱託職員】 塩谷邦子(経理、社会保険等)、大谷 隆(出版編集等；4月末迄)、松下仁美(総務、常務理事講師派遣調整等、週4日勤務)

【アルバイト】 藤本勝代(V募集情報整理、北区事務所会館運営等)、保村美佐江(ONP・北区事務所会館運営)、森本正史(ONP会館運営)、畑田 貢(大阪NPO情報ネットデータ整理、ONP会館運営)、山下輝夫(ONP・北区事務所会館運営)、山田美樹(ONP会館運営)、岡村豊子(出版販売、北区事務所会館運営)、牧口 明(ライブラリー整備)

【ボランティア】

【事務局支援】 平手 清、今村澄子、藤原正規、山根川百香

【ウォロ(volo)】 朝井翔二(『volo』のカット作成)。元・久の会、トミの会、岡本佳子、岸田和弘、友金英治、中野伊津子、深野久雄、福満奈都、吉中広子(以上、『volo』の発送支援)。

【ザ・ボラ協】 森山 孝、畑田 貢(『ザ・ボラ協』校正)。

この他にも日常的に多くの方々にボランティアとして事務局業務にご協力いただきました。ありがとうございます。